

24 . マリキナ川の伝説 (リサール州)

昔々、小さな町に、若く美しいマリキットという名の女の子がいました。しかし、彼女はまた、うぬぼれの強い少女で、美しい服を着飾ることや、自分自身にもっと人をひきつけるために、化粧することに多くの時間をかけていました。

マリキットの家からそう遠くない所に、小さな川があり、毎日マリキットは、この川のそばを歩いていた。彼女は川岸に寄りかかって、水の中の自分自身の姿をじっと何時間も見続けていました。自分自身の美しさをうっとり見て、自分がいかに美しいか、自分に言い聞かせていました。

ある日曜日の朝、マリキットのいとこテスが、家を通りかかり、教会へミサを聞きに一緒に行くように誘いました。マリキットは招待をたいへん喜び、いとこには、待つように言って、急いで寝室へ準備に行きました。

マリキットがたくさん服の中から、教会へ着て行く美しい服を選ぶには、長い時間はかかりませんでした。しかし、化粧をするのは別の問題でした。マリキットは教会の中でもっとも美しい少女になりたくて、彼女のアイシャドーにいちばん似合う色の口紅、ファンデーションにいちばん似合う頬紅を決めるには、時間がかかりました。

マリキットは準備にたいへん時間がかかるので、マリキットのいとこは、耐えられなくなりました。そこで、いとこは寝室に入って行きました。そこではマリキットは、長い黒髪にブラシをかけていました。「マリキット、私たちはもう教会へ行かなければならないわ。そうしないと、ミサに遅れてしまうわ。」マリキットは、ブラシをかけたまま、「テス、もうちょっと時間をちょうだい。」と彼女は頼みました。「私は美しくしなければならぬわ。」しかし、テスは、いとこの腕をつかまえて、強く彼女を家から引き出して、言いました。「あなたはもう十分美しいわ、マリキット。」と言いました。

マリキットと彼女のいとこは、小さな川のそば
フィリピンの神話と伝説 24 . マリキナ川の伝説

を通り過ぎました。マリキットは水の中の自分の姿を、うっとり眺めるために、止まらないではいられませんでした。「十分でしょう、マリキット。」彼女のいとこはガミガミ言いました。「私は言ったはずよ。あなたはもう美しく見えるわ。教会へ行きましょう。そうしないと、そうしないとミサに行けないわ。」しかし、マリキットは彼女の美しい姿に夢中になって、彼女の髪への新鮮な花輪を整えていたので、彼女はいとこに答えませんでした。テスはいとこを待ちくたびれて、ひとりで教会に行くことにしました。

時間がたつのに気付かなくて、マリキットは着飾ることを続け、川の中の彼女の姿に、見とれていました。彼女は空が雲でおおわれてきていることにも、暗い雨雲が集まっているのも、気付きませんでした。彼女は重い雨に邪魔されませんでした。それは彼女のまわりにたまり、この雨が皮の水かさを高くしていることにも気付きませんでした。雷がはじめて光りました。しかし、まだうぬぼれの強いマリキットは、川の中の自分の姿を見ていて、いまや、荒れ狂う急流になっていました。

突然、強い突風がどこからともなく吹いて、マリキットをたたき、荒れ狂う川へ巻き込みました。マリキットは助けを求めて叫びましたが、絶望的な彼女の叫びを聞く者は、まわりにはいませんでした。強い流れは、自分ではどうすることもできず、マリキットは下流に運ばれ、彼女はすぐに増水した川の水面から消えました。そして、二度と上がってきませんでした。

いとこの安全を案じたテスは、教会から会衆の何人かと走って行きました。彼らは風や雨が吹き流して、彼らの道を、荒れ狂う川のようにしているものと闘いました。テスは美しいいとこをあちこち、いたるところを探しましたが、どこにも見つけれませんでした。彼女はいとこの名前を呼び始めました。「マリキット！マリキット！」と彼女は呼びました。しかし、答えはありません。また、彼女は呼びました。「マリキット、ナ！マリキット、ナ！」その意味は「あなたはもうす

に美しい。」です。しかし、依然、答えはありません。テスと会衆のメンバーは、美しいマリキットを見ることなく、悲しく家に帰りました。

今日、その川は、「マリキナ川」と呼ばれています。それは、「マリキット、ナ」が短くなったものです。そして、川のそばの町も、同じ若く美しい、そこで死んだ同じ娘のマリキナの名前から取っています。

もし、静かな日、川のそばに立ったなら、あなたは、風が笛を吹いて、美しい少女の名前が呟かれるのを聞くかもしれません。「マリキット、ナ！マリキット、ナ！」(あなたはもうすでに美しい。)